





古今和歌集

序

凡古今集乃假字序なるり少て。其字序のる記と。和歌の序と。後成にあらば。用ひ。字家には。奥よ。其字序のありと。其意の中といふ。或りち。おら。と也。但自筆の古今集。其和歌乃中におり。其意の中を。さ。とく。た。く。た。る。と。さ。れ。む。い。し。む。と。し。り。ち。ぬ。る。と。や。其意乃中。これ。も。其字序のる記。分。り。く。中。の。奥。よ。あり。為。家。に。用。は。し。る。中。に。假。字。序。の。あ。り。古。し。集。と。り。さ。た。る。中。也。後。成。に。其。家。に。為。家。の。い。し。む。も。中。乃。さ。と。く。り。わ。る。不。審。なる。事。也。

此目録乃家よ。其和歌負應の記。さ。も。さ。ち。ぬ。た。る。後。家。よ。今。負。應。の。中。に。さ。ち。ぬ。る。事。に。よ。り。て。負。應。乃。中。に。



て。崇雅。將軍家よ。おわく。涉。講。口。むり。一。糸。襟。圍。ハ。か。さ。て。
 乃。中。ハ。あ。や。ま。り。お。り。一。糸。襟。乃。中。と。ま。ち。あ。て。し。う。こ。ま。
 大。和。歌。も。む。し。う。の。平。仙。よ。人。丸。赤。人。た。右。る。記。人。と。み。え。たり。
 茶。茶。集。ハ。撰。歌。乃。も。ど。め。也。人。皇。六。十。代。延。喜。の。決。時。よ。あ。
 け。の。乃。を。お。し。結。中。よ。和。歌。乃。道。を。ま。て。あ。そ。び。結。て。
 紀。歌。を。し。び。道。乃。事。者。た。れ。む。は。集。を。撰。定。せ。し。め。後。費。を。
 席。と。う。ま。そ。和。歌。の。お。り。さ。ゆ。く。れ。伴。を。あ。へ。は。は。席。と。
 しく。あ。ろ。え。て。和。平。と。学。ぶ。こ。也。は。集。し。り。お。続。し。く。
 代。の。撰。集。あり。は。集。乃。假。字。志。字。席。假。字。ハ。費。く。く。ま。
 ま。ま。ハ。紀。志。台。雄。に。末。系。紀。淋。望。く。ま。り。は。く。由。ま。喜。喜。子。と。
 ま。り。也。席。乃。古。代。を。漢。字。乃。又。章。に。く。お。て。假。字。席。小。
 成。り。く。お。て。費。く。お。く。と。あ。り。さ。れ。む。し。う。ま。字。席。表。席。也。

本。よ。け。あ。り。費。く。く。ま。り。假。字。席。と。淋。望。漢。字。小。う。つ。
 一。書。と。も。し。る。り。假。字。席。よ。お。り。く。る。記。事。の。志。字。席。
 よ。了。知。せ。し。る。事。も。あり。お。ま。の。あ。あ。ふ。く。く。り。た。と。
 み。え。し。り。あ。り。た。も。志。字。席。ハ。る。記。分。よ。く。本。乃。奥。よ。あり。
 新。古。今。集。よ。假。字。志。字。の。二。席。と。集。の。も。ど。め。し。う。の。
 ら。れ。し。り。ハ。何。と。治。さ。し。し。く。お。ま。れ。お。ら。れ。く。ま。り。や。

まきよりくかくたり

世の中にある人、いふに志を記しそのなれいひはむす
まきよりくかくたりのよつまでいひ出せるなり

と云。世の中にある人とのい。天地人の三才^{さい}の中の一なり
清氣^{せいぎ}も濁氣^{じやくぎ}もあつて天とあり。濁氣はほびして地とあ
ふは天地乃氣とてきて。産づくまきり氣を神となれ
おれとありらん人のちりめ也。人道の始は神あり。地
神^{かみ}及び代の始は天照大神^{あまてらす}人皇^{ひまらう}乃ち神武天皇
にうつる。おれよ、まきり也。あつたまに志を記し
なれどと云。報治^{ほうぢ}乃ち力をほくら。番匠^{ばんじやう}乃ち家とたつ
ことと云ふ。あつて情中^{じやうちゆう}にうつる言^{ことば}あつてあつて
あつた乃ちより報治^{ほうぢ}といひ出せしむ。いふと云ふといふ

後^{のち}の字あつていふもあつたまにゆくの事也。報治^{ほうぢ}と
くちとよむ。假治^{かりぢ}乃ち字形^{かたち}のころあつたまは謬^{あやまち}なり
と云。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事
つとみくつひい。勢^{せい}はなりと云。上乃後志^{のち}は
と云。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事
いふる物^{もの}いふる物^{もの}と云。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事
と云。假字^{かりじ}まにゆくの物なりと云。又の勢^{せい}ありて
たつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。

あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。
あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。あつたまにゆくの事也。

任君乃漢のころありては、
は西晉の漢を、おそく入て、
ちぬ、まゝく、學。およ、まゝく、
正ら、ま、れ、だ、い、く、る、物、
高字、高、一、よ、ま、ま、は、
惟、五、曲、節、各、發、秋、信、物、
ある。假字、席、と、お、ま、
と、阿、れ、だ、お、ま、
せ、い、な、乃、ま、の、
事、よ、也、朗、詠、也、
義、乃、何、か、よ、
と、く、と、し、り、お、ま、

し、く、秋、と、ま、ま、
こ、ま、て、い、ま、
ふ、と、し、秋、を、
字、秋、と、ま、
も、秋、也、一、切、
み、乃、乃、い、
を、秋、と、し、
つ、秋、に、ま、
も、秋、これ、
し、ま、これ、
ち、し、し、し、
お、ま、秋、な、

其もきそのゆにあるをもくもくしていふ也
 といふていふもいふていふ地とていふれむいふ
 ぬ鬼神ともあるれとありていふていふていふ
 する也。あはれ。毛詩。動天地感鬼神。莫過於詩。と
 いふ也。奉持ていふていふていふていふていふ
 鬼神のさかす。いふていふていふていふていふ
 神といひ地乃てを祇といひ人の魂を鬼といふ。これ天
 地人の魂をあれとありていふていふていふていふ
 論語云。非其鬼而祭之。謂之誩。と孔子のいふをいふ
 人の魂をいふ。あれ我先祖の魂をあれとありていふ
 誩といふ事なり。いふていふていふていふていふ
 ありていふていふていふ。或は天の宮なり。河内子言

と云。遂に他家とていふ。其。何莫伊勢あるとていふ
 鬼神をいふていふていふていふていふていふ
 古も本を我大君乃ていふていふていふていふていふ
 といふていふていふていふていふていふていふていふ
 方をいふていふ。又和泉東郡。男小。いふていふていふ
 際とていふていふていふ
 うつろていふていふ。信田の毒をいふていふていふていふ
 といふていふていふ。古今雜記といふていふ
 後拾遺集。詞也。男にあらはるていふていふていふていふ
 ていふていふていふていふていふていふていふていふ
 物ありていふの管をいふていふていふていふていふ
 といふていふていふていふていふていふていふていふ

考根乃祢のくもやとていふまじきものなる。梅格とてあ
まはなとあまてあまはほくねとていふまじきかきもなる
昔にうつりていふまじきものなる。祢のくもやの祢の
たれどいふまじき事どもあり。大雅をたてしこといふ
あまのくもやとていふまじきものなる。女の見身をあててせう
くもや。えびとていふまじきものなる。迂乃字とてい
たることいふ。日本紀は夷曲とていふまじきものなる。中国
乃くもや。河よりなるにゆりていふまじきものなる。やびまを
たてしもの海は夷曲とていふまじきものなる。けうゆとてい
とていふまじきものなる。伊物ははわらうづれとていふまじき
かまのくづれとていふまじきものなる。昔のくもやとていふ
あり。日本紀の古きとていふまじきものなる。

こねるり。の教もさへゆへに祢乃やうもあはぬ
事ともなりとて。下照根乃まじきものなる。いと
詞もたうもあはぬ事なり。但しあ。經款。旋頭。弄。等
の根源は人の世とありてもかまの祢のまじきものなる。至極た
り。大和乃序。思山。く。航人は。結。脚。款。も。かま。俣。捨。を。二
集り。みる。こと。

あはれ乃つちありていふまじきものなる。それかこり
ちもあはれ祢代はまじきものなる。とていふまじきものなる。す
くもやのあはれこりかきものなる。――
とてあはれまじきものなる。その根源はつちらる。金
くもや。がらあはれまじきものなる。水もそゆりそ
くもや。踏。踏。まじきものなる。ていふまじきものなる。法
の一字と

と八生獲大の大地と云ふてこれ大地を燒く煙の
をこのをばふ乃る云々といふ。昔重玉といふもの雷乃た
ありふりてこの名に當りて大地と云ふて此を
を湯津の風槍より取りたる。みことれ頼より
ぐり乃る云々。風の似たりあれを海松の根より取り
賢實撥り。大地より毎は野をさへ入る。酒を飲
酔くもせし。八の風槍を八の終となりて。大地を食
みこと下握剣より大地を隠ふ事り終り尾より
雷より尾をやぶりとて。此より細と草薙剣といふ
は地比剣と帯より射る尾よ。はよ重氣あるを
天叢雲剣といふ。さるとりて。後日神は中とる事り
は剣と有り云々。日神あれむ。ついで細よりとる事

その後人皇十二代。系行の沖時。東夷日神小玉むけ
細と。系行向皇子。日武は終りて。東夷を征せむ。皇
子駿河に浮島原より。えびもと原乃る事。火とて
あはれぬ。白皇子腰乃細をぬきて一揮して。雲霧一
里の若菜。りたがふ。これ火自滅とあれり。これを
改く。草薙剣といふ。これを化して。白鳥と云りて
飛する。細ハ尾州勢田乃神祠よ。おさむりて。草薙剣ハ
日本武尊乃時の名なる。此日本紀よ。とされよ。大地の
尾よりえり細を。草薙剣といふ。やうのちがひおかし
ずされよのみと。昔重玉は配りて。時よ。昔海より
浮てたぐりて。海ありあれ。大地はほぬ。ねち。これを日
神の西よ。わく。我れと云うと。せんとして。ふる。ちる。で。終り

一、...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

ず。同多て。い。あ。は。の。賢。人。を。賞。と。し。と。善。と。わ。れ。ど。
 所。を。し。て。中。朝。よ。あ。り。う。う。王。仁。禮。節。の。み。ま。よ。そ。し。る。
 父。を。殺。し。む。び。た。し。ら。勢。勢。よ。あ。る。に。我。も。あ。て。三。十。一。
 字。の。勢。を。よ。み。く。ま。ら。し。め。ら。り。仁。は。さ。津。の。ま。れ。さ。
 梅。よ。の。が。り。く。由。後。と。ら。に。民。の。う。り。も。あ。た。と。下。り。り
 百姓。の。儀。役。こ。も。と。と。り。後。よ。を。後。お。ろ。の。勢。の。あ。り。と
 後。こ。び。は。ひ。く。

多。た。あ。の。の。が。り。て。み。ま。し。禮。節。の。ま。よ。し。む。ま。い。し。は。ら。
 と。海。一。う。い。げ。方。新。古。今。契。約。よ。り。わ。り。個。物。と。も。の。後。を。よ。
 愛。敬。や。う。ら。れ。ど。も。つ。く。あ。り。勢。た。さ。ら。ん。人。民。を。れ。は。め。ど。
 と。と。感。し。く。文。節。と。は。く。り。ま。る。か。ら。大。慈。悲。乃。淨。心。を。
 治。世。八。十。七。を。ち。で。み。く。も。も。い。ち。し。て。甲。一。ま。

せ。さ。う。し。の。う。ら。繁。さ。う。の。め。乃。さ。う。し。れ。は。り。よ。み。く。
 勢。の。の。か。ら。い。ま。い。ま。み。ち。れ。お。く。は。つ。り。たり。多。う。時。ふ。國。
 の。つ。も。す。お。後。そ。り。た。り。と。く。ま。う。け。な。と。ま。り。ま。ん。
 こ。い。ち。し。ゆ。り。ら。れ。た。う。の。め。ら。り。ま。る。女。の。う。ら。ま。さ。り。
 て。よ。ろ。う。也。あ。ら。ま。そ。お。か。さ。と。ら。ん。と。け。よ。あ。れ。

と。り。これ。も。あ。ら。う。ら。う。これ。は。ほ。る。り。安。徳。山。ハ。奥。別。安。
 積。那。よ。あ。う。し。れ。な。さ。り。葛。城。ま。よ。と。ち。れ。お。く。は。つ。り。と。
 ぶ。む。り。の。國。司。と。い。て。善。政。を。お。こ。さ。る。べ。し。と。の。格。
 式。を。と。り。れ。た。れ。ど。も。程。守。法。の。勅。使。を。つ。り。て。あ。い。
 と。檢。査。せ。し。め。ら。れ。る。あ。れ。を。親。察。使。と。察。使。民。善。使。と。
 も。り。弘。仁。護。藏。の。淨。財。ま。よ。は。す。あ。り。う。ら。れ。ち。ら。ま。勢。
 て。か。し。親。善。よ。い。あ。ら。う。ら。う。と。り。れ。り。の。ま。あ。ら。わ。と。

たりと。今の後よりの勢多し也。如くこのおんまの
 井邊に大臣楊徳兄（やんてく）乃（な）名（な）あり。け徳兄（とくせう）を敏（み）通（と）天皇
 又世の孫あり。聖武（しやうぶ）に法（ほ）くしと。天智（てんじ）に敏（み）後（ご）三位（さんい）
 十三年正二位任（に）大臣十一年正月從二位。十二年正月
 從一位。即任（す）大臣。感（かん）實（じつ）元年四月正一位。あれり。て
 於（お）王氏（わうし）なり。勝（しょう）實（じつ）二年正月婚（こん）と楊（やう）と結（むす）りて。姓（せい）とを
 氏（し）改（か）よ。

舊ハ妻（づま）と人（ひと）を修（しゆ）へ人（ひと）を相（あ）へとともたふと記（し）をたれ
 どあそそとさねとと也。實（じつ）と人（ひと）を修（しゆ）へそのともと人（ひと）の妻（づま）も
 花（はな）も美（み）しといふ人（ひと）なり。比（ひ）乎（や）可（よ）美（み）といれり。源（げん）平（へい）敏（み）徳（とく）
 曰（い）姓（せい）乃（な）中（ちゆう）に。楊（やう）氏（し）弟（てい）一（いつ）なり。弟（てい）美（み）をさ。比（ひ）大臣（だいじん）撰（せん）じとあり。
 葛城（かつらぎ）王（わう）玉（たま）の目（め）おろそろなりとて。いづろ名（な）れとて。

あけを。采女（さいにょ）といふことにて

あきうがげと人（ひと）を修（しゆ）へ人（ひと）を相（あ）へとともたふと記（し）をたれ
 どあそそとさねとと也。實（じつ）と人（ひと）を修（しゆ）へそのともと人（ひと）の妻（づま）も
 花（はな）も美（み）しといふ人（ひと）なり。比（ひ）乎（や）可（よ）美（み）といれり。源（げん）平（へい）敏（み）徳（とく）
 曰（い）姓（せい）乃（な）中（ちゆう）に。楊（やう）氏（し）弟（てい）一（いつ）なり。弟（てい）美（み）をさ。比（ひ）大臣（だいじん）撰（せん）じとあり。
 葛城（かつらぎ）王（わう）玉（たま）の目（め）おろそろなりとて。いづろ名（な）れとて。

いあし改（か）へし。乃（な）ちとて。そのやうして。そのおろし人の

さくやあのみれとみく。神門とて人なり。一より事
 記く。古義ありけり。若しあはれ撰せし。時。漢書
 作て。その由より。詩をり。あつた。れり。さ。万葉
 集。言。友。秋。冬。を。混。雑。る。と。然。と。し。け。し。一。玉。の。歌。と。一
 所。より。さ。つ。ら。ら。れ。し。毛。詩。の。神。よ。お。似。せ。り。古。義。極
 て。あ。ら。う。と。え。て。た。ま。也。風。雅。頌。の。三。を。各。篇。賦。比。興。の。三
 を。神。ら。り。あ。ら。う。ふ。ま。は。ま。友。秋。冬。を。混。雑。を。各。篇。よ。あ。て
 古。義。皆。神。よ。ら。れ。り。古。義。の。名。目。を。り。と。然。と。し。け。り。て
 た。と。さ。つ。ら。ら。れ。し。毛。詩。の。一。つ。の。神。の。記。り。て
 こ。と。さ。つ。ら。ら。れ。し。人。の。さ。り。や。古。義。よ。も。む。し。と。し。け。り
 じ。ま。は。い。え。る。ん。あ。ら。う。と。し。け。り。て。さ。つ。ら。ら。れ。し。と。り

詩正義云賦比興云別孔子合於風雅頌中孔子以

前未合之時賦比興別爲篇卷碧漢云一曰風非國
 風之風五曰雅六曰頌非大雅小雅之雅高頌周
 頌之頌也詩周云風風也教也凡風化之所繫皆
 風也賦者鋪陳其事比者引物連類興者因事感
 發雅者陳其正理頌者美而祝之云云は文のさく
 古今よさつら。所の六義より。あ。ら。う。と。し。け。り。て。毛。詩。の
 同。雅。頌。各。篇。と。見。え。賦。比。興。を。神。と。み。え。た。ら。は。だ。一。篇。を
 つ。い。ま。は。い。え。る。ん。あ。ら。う。と。し。け。り。て。さ。つ。ら。ら。れ。し。と。り
 の。ぶ。ら。也。古今集また。あ。ら。う。と。し。け。り。て。毛。詩。の。一。篇。を
 大雅小雅と。い。ふ。事。天。下。の。事。を。り。て。奏。す。と。し。け。り。て。小雅
 雅と。い。ひ。洛陽。の。事。乃。事。を。り。て。奏。す。と。し。け。り。て。高頌。周頌。各。篇。と。し。け。り。て。帝。者。の。先。祖。七。代

乃藤とありて。王宮の中は遠く。されどさうの母れを
文と題とらふ。碧落は又大雅小雅商頌周頌には雅頌より
あつた。

あつた。

乃藤とありて。王宮の中は遠く。されどさうの母れを
文と題とらふ。碧落は又大雅小雅商頌周頌には雅頌より
あつた。

乃藤とありて。王宮の中は遠く。されどさうの母れを
文と題とらふ。碧落は又大雅小雅商頌周頌には雅頌より
あつた。

あつた。

流れるたこころにひく物よきものありしをわすれしは
はかりのふりかへるあはれなるれんらるる一りふたふあ
らるるものありて

とらば後るほを依り乃るたせむの雅ふせむ
秋風城よりあつらひるあはれをわたりしをあり乃
ちふりてぞねも賦ハねむひまをたむのやうなる
まよひのつゆ又後かぞへ秋とらるるは六義の流し賦
とらふと文選もふある賦乃侍ふあそくしてよむべ
とらふもの物よたふたふたむてまよひをまよひつ
けそくむふは賦の侍とらるるは後賦の秋ハ文選ハ
周公丹詞を花賦為来芽ま留とらるる賦字くまふと
い一首よふありとらるる也。神はして結び水のこた

ゆきの秋。神はしてむとび水はまぎたふと
あはれなるは。をれんらるるまよひと二季とよあふ
けす乃るまよひたり。そく花よありひはくものハ。ま
独のころあはれとらるる。道むのん。つらむ。ま常れ
ころあはれ。あはれとらるる乃らるるハま常たり

文記録云相如野草菴食蓬住年暑忽忘無常
懐悦ハ文のころハ周蘭櫻王の既ふる相如といふ
者。ま常ふりて。岳岸といふ罪ふらるる。若くは食
し。く丸まらるるに。政恵と云ふ十卷の書とほくら
神門よなほ。法流りて。車とほらりて。石をりて。天
下乃らるる。まらるる。まらるる。聖りて。ま常と觀せ
が。今ハま常と悦とらるる。はまよひとらるる。ま常と

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

カキキキキキ

何れ此致あれも同乃奇のごとく。空^ト面^ニまたりて其の
 ましとるをば一と。きとくもくをよめる也。但同の奇の
 大意のゆゑも。真と偽との別をいづる中。ゆゑもある也
 或は我とわづらひて。後乃きとこれあまのう。かよよ。い
 の勢多う。誠^ニ同^ニ真^ノのる差別^ニるは。似たり。但後よ
 知せる致も同俾^トは。似たり。ふふ別^トとらるも。あつた
 たり。又後あれも二乃物と二なり。いづれも。似たり
 と。いづれも。ちと。各^ノ野^ノの形をみる也。同^ニ真^ノと。わづら
 たり。いづれも。あつた。いづれも。同^ニ真^ノと。わづら。形^ノと。形^ノ
 と。似たり。真^トと。も。いづれも。各^ノ別^ニとら。は。う。り。め。也
 かり。そ。あ。乃。漢^ノの。ま。あ。乃。致^トり。も。我。を。わ。づ。ら。い。づ。れ。も。
 ト。を。ま。す。と。い。ひ。く。な。め。の。ら。と。そ。う。な。り。て。各^ノ別^ニ

たり。す。な。を。真^トあり。た。と。く。ち。も。各^ノ別^ニとら。ふ。ら。り
 たり。か。く。の。ご。と。く。乃。は。傳^トじ。り。あ。れ。も。教^ト実^トを
 い。ひ。お。や。務^トら。ぬ。事^トなり。同^ニ真^ノと。わ。づ。ら。り。お
 携^ト方^ト。陰^ト真^ト致^ト。俾^ト勢^トを。た。と。い。侍^トなり。雅^トハ。中^ト玉^トの。侍^ト也
 頌^トハ。若^トれ。徳^トを。あ。め。く。神^ト也。よ。き。う。あ。り。同^ニ真^ノと。わ。づ。ら。り。雅^トハ。中^ト玉^トの。侍^ト也
 乃。さ。ら。ん。と。い。ふ。も。ん。は。い。づ。れ。も。の。よ。た。と。く。な。り。も。せ。あ。い
 賦^ト乃。侍^トなり。物^トよ。辨^トと。く。ち。も。我^トと。ら。り。と。の。い。づ
 ぶ。い。づ。の。侍^トなり。ち。と。わ。づ。ら。ぬ。も。若^トれ。も。と。物^ト乃。奇^トも。お。や。の。う。ち
 乃。さ。ら。ん。と。い。ふ。も。ん。は。い。づ。れ。も。の。よ。た。と。く。な。り。も。せ。あ。い
 真^トと。い。ふ。も。ん。は。い。づ。れ。も。の。よ。た。と。く。な。り。も。せ。あ。い
 つ。ま。り。い。づ。れ。も。真^トと。い。ふ。も。ん。は。い。づ。れ。も。の。よ。た。と。く。な。り。も。せ。あ。い
 乃。致^トと。い。ふ。も。ん。は。い。づ。れ。も。の。よ。た。と。く。な。り。も。せ。あ。い

のたふらと。あはれむること。まふたふらと。あつてり
 花さかちのちひのしむる。あはれむる。あつてり。あつてり。
 と。あはれむる。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 くれむ。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 り。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 い。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 志。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 と。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 秋。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 も。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 衣裳。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 と。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。

す。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 も。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 落。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 いら。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 と。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 乃。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 あ。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 ち。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 ち。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 ち。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 ち。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 ち。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 ち。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 ち。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。
 ち。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。あつてり。

ゆゑにわかれとてさう月影のうらをえんや夜うらう人
けうご自慢より入られうをぬ民戸に入道して云
下乃歎滅くるとり人よさうとれ。京極橋政息内
大臣などの人の傾城まづう衣うえんみと海か
むととり。そそとめをおりむぐとあぐくたん
あゝぬとらうにけいぞ老成思ふぞ。意海るもの
ぼくをうす。世はまう海津の蝶たどのあゝま
るたまうの秋とよとらけうととりうらう

